



第1期生の本江紗羅さんを迎えました。本江さんは町内に下宿しながら、学校や地域の人たちとふれあい、留学先として選んだ大槌町のことを学びました。地域の人の協力も得て、大好きだと語る三陸鉄道の模型に親しむイベントを開催。吉里吉里公民館で行われたイベントには、50人を超える人が来場しました。本江さんは「鉄道を知ってもらいたくて企画しました。準備や、チラシを配る時にも地域の人に協力してもらいまし

はま留学と地域の関わり
 昨年度、町は全国から入学生を募集する「はま留学」をスタートし、生徒たちはこれまで、フィールドワークやマイプロジェクトの活動などで、町内各地の様々な人たちから話を聞いたり、テーマについて一緒に考えたりしてきました。地域の中で考えることで、自分たちの住む町を改めて見つめ直し、町の魅力を発見することへもつながっています。



自ら企画した三陸鉄道のイベントで子どもたちとふれあう

た。子どもから大人まで来てもらって、感謝の気持ちでいっぱいです。このイベントのために話をした人は100人以上。地域の人と一緒にないと、イベントはできないと感じました」と話します。全国の高校の中から自分で大槌高校を選び、町から学びを得ようとする積極的な姿は、地元出身の友達や地域の人たちにとって、地域や人の魅力に気づき、つながりを深めることに結びついています。



特集×大槌高校だより

地域に学ぶ 地域も学ぶ

地域をフィールドに学ぶ

大槌高校では、「三陸みらい探究」の学習の中で、行政の事業や地域課題についてのフィールドワークを通して調査や、興味関心がある事柄をテーマに、地域をフィールドに活動する「マイプロジェクト」などに取り組んでいます。これらの活動は、地域の課題や、自分が興味あるテーマについて地域の人たちに相談したり、地域活動に参加して実際に体験したりと、地域の皆さんの協力が欠かせないものとなっています。